

ほっこり ウィークリー

(毎週金曜日発行)

87号
2022
3.11

京都府立植物園

〒606-0823 京都市左京区下鴨半木町
TEL 075-701-0141 FAX 075-701-0142
<http://www.pref.kyoto.jp/plant/>

園内で野鳥の死骸を発見されましたら、鳥インフルエンザの疑いもありますので絶対に触らずに職員や各門へお知らせください。

行事予定と今週ぜひ観ていただきたい植物の情報をお届けします！

※休園日は、年末年始(12/28~1/4)だけです。



← 京都府立植物園【公式】Twitterアカウント始めました！見頃情報を中心につぶやいています。

京都府立植物園【公式】YouTubeチャンネル始めました！動画で園内の様子を紹介しています。 →



「第17回 早春の草花展」
～すぐそばの春～
2月11日(金祝)～3月13日(日) 10:00～16:00
大芝生地 特設会場にて・・・
～寒さの残るこの季節・・・
一足早く「春の景色」をお届けします！～



第30回 春蘭展

○期間：3月11日(金)～3月13日(日)
○時間：9:00～17:00(最終日は16:00まで)
○場所：植物園会館1階展示室(販売あり)
○内容：シュンラン約100点及び席飾り5席を展示

第61回 つばき展

○期間：3月25日(金)～3月27日(日)
○場所：植物園会館1階展示室、2階多目的室
○内容：京都の名椿などツバキの切り枝を展示

◆3/26(土)園内つばき探訪

植物園会館前集合 13:00～13:45

「園内の椿案内」
案内：植物園職員

◆3/27(日)つばき展 関連講演会

植物園会館2階研修室 13:30～15:00

(当日受付 13:00～) ※定員：先着60名
「私とつばき 市家のつばきと上賀茂神社のつばき」
講師：市忠顕氏(京都園芸倶楽部会長)

「水曜ミニガイド」 植物園認定ガイドがご案内！

毎週水曜日は・・・

植物園会館前集合：午後1時スタート！

「副園長のほっこりガイド」

3月20日(日) 何処を歩くかはお楽しみ！

植物園会館前集合：午後2時スタート！

スマホdeガイド

QRコードをスマホで読み込み、「位置情報を利用する」に設定！

京都府立大学との共同により、スマホを使って園内の自分の位置が確認できる『スマホdeガイド』を作成！「おすすめ樹木めぐり」「おすすめエリアガイド」などをスマホで確認し、植物観察！

第6回 絶滅危惧植物講演会

○日程：3月26日(土)
○時間：13:00～15:15(受付は12:30～)
○場所：植物園会館2階研修室
○内容
「絶滅危惧植物の保全について」
瀬戸口浩彰氏(京都大学教授)
「府立植物園のナショナルコレクション」
平塚健一技術課長
「アマミアセビの保全活動」
長澤淳一氏(京都府立大学特任教授)
○定員：当日先着60名

第30回 球根ベゴニア展

○期間：3月26日(土)～4月10日(日)
○場所：観覧温室(ジャングル室)
○内容：球根ベゴニア約300鉢を展示

◆4/3(日)球根ベゴニア展 関連講習会

観覧温室特別展示室 13:30～
「園内における球根ベゴニアの栽培方法」
講師：植物園職員
※定員：当日先着20名

「土曜ミニミニガイド」 技術課職員が植物解説！

毎週土曜日は・・・

植物園会館前集合：午後1時スタート！



「植物園ガイド」が植物案内！

～見どころ案内・魅力解説・楽しさ倍増！～

- ① 7名以上のグループや団体で来園される方を対象
- ② 申込は希望日の10日前までに。(要相談)
- ③ ガイドは1時間程度。(無料)

* 申込先：京都府立植物園 TEL 075-701-0141

植物園芸相談

■ 毎週日曜日 午前9時～正午、午後1時～午後4時
■ 電話075-701-0141



※年間パスポート好評発売中

- ・1年間、何度でもご利用いただけるお得なチケットです！
大人1000円 高校生750円
- ・入園門でご購入いただけますので是非お買い求めください。
※温室観覧料は別途必要となります。

植物園HP！



今週の「探して！」
2022. 3. 11
87号

⑫ プリムラ・パリヌリ

サクラソウ科。イタリア南部に分布。沿岸地域の標高200m程度の石灰岩の岸壁に生息している。北側、または北西側の斜面を好む。岩の亀裂に根を下ろし、堆積土の奥深くまで浸入する。15~20cmの花茎の上部に多数の花を咲かせる。

⑪ ウメ

バラ科。中国原産。日本への渡来は西暦700年頃といわれ、実を取るためや花を觀賞するために古くから栽培されてきた。万葉集では梅を詠んだ歌が119首あり、桜の40余首を上回る。奈良時代には春の花見はウメを觀賞していた。

⑩ ポーモンティア・マルチフロラ

キョウチクトウ科。インドなどヒマラヤに分布。常緑つる性の樹木。花をよく見ると五本の雄しべの先端が合わり半開きの傘状をしており、それに雌しべの先端が包み込まれるユニークな構造をしている。夜に強く香り、媒介する蛾などを誘う。

⑨ クロッカス

アヤメ科。地中海沿岸から小アジアにかけて分布。香料や染料、薬品に用いられることで有名なサフランはクロッカスの仲間。早春を告げる花として人気が高く、早咲き系の種類は、寒さの残る2月中旬には開花が始まる。

① ハッサク(八朔)

ミカン科。日本が原産。1860年頃、広島県因島田熊町のお寺「恵日山浄土寺」の境内で発見された品種。名前の由来は八朔(陰暦の8月1日(新暦の8月30日))の頃から食べられたからと伝えられている。しかし実際の出荷時期は4月頃。

② スイセン‘ソレイユドール’

ヒガンバナ科。園芸品種。野生種は地中海沿岸諸国が原産。キブサスイセン(黄房水仙)とも呼ばれる。本品種は切り花用として改良された。ニホンズイセンに似ていて、その黄花種かと思われたりするが、別種である。

③ フクジュソウ

キンポウゲ科。北海道から九州などに分布。黄色のおわん状の花は春先の少ない日の光を中央部に集めて花の中を暖めることで、媒介するハナアブ類を誘い活動を活発にする役割があるともいわれる。スプリング・エフェメラルの一つ。

④ 雪割草(ヘパティカ)

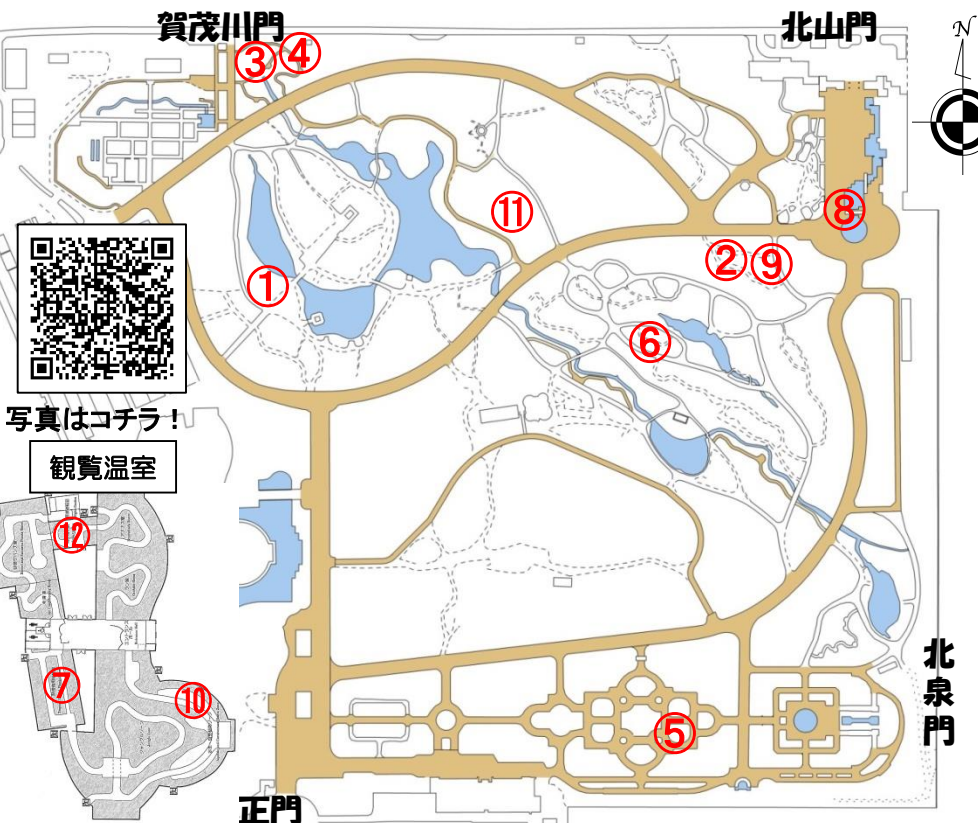
キンポウゲ科。雪解けとともに開花することが名前の由来。カタカナ表記の「ユキワリソウ」はサクラソウ科の別の植物を指す。花卉に見える部分はがく片で個体ごとに様々な色、模様があり、江戸時代から園芸植物として親しまれている。

⑤ シクラメン・コウム

サクラソウ科。トルコの地中海沿岸などに分布。葉はハート形で小さく丸い。葉に入る銀白色の斑も多様で花とのコントラストも楽しめる春咲きの原種シクラメン。本種は耐暑性・耐寒性に優れ、丈夫で栽培しやすい。

⑥ アセビ

ツツジ科。本州、四国、九州の山地に自生。葉や茎には、有毒成分が含まれているため、馬が食べると毒にあたって酔ったようにふらふらとした足取りになることから、漢名で「馬酔木」と書かれるようになったとされる。



⑧ ヘレボルス・オリエンタリス

キンポウゲ科。ギリシャやトルコなどに分布。日本では本種を含む全てのヘレボルス属を総称して「クリスマスローズ」と呼んでおり、その名称で知られている。欧米では冬に咲く「ヘレボルス・ニゲル」のみを「クリスマスローズ」と呼んでいる。

⑦ マンゴー(花)

ウルシ科。北部インド~マレーシアに分布。インドでは4000年以上前から栽培されており、仏教の經典にもその名が見られる。花は総状花序。小さな花が房状で咲く状態になり、開花後に強烈な腐敗臭を放ち、受粉を助けるハエを誘う。